資料　7－2

にしく☆リーディングチャレンジ事業について

1　事業概要

児童が読書習慣の形成により主体的に学び続けることができる力を醸成するとともに、表現力や言語能力等の向上を図るきっかけづくりを目的に、区内小学校の児童を対象に「読み聞かせ」の機会を提供。また、読書に関連する区独自のイベントを開催し、読書活動の定着・拡大を図る。

2　現状と課題

①既存事業（体力向上事業）は、学校の規模によって不公平さが生じ、児童に十分な還元ができない。
②昨今の課題として、IT化が進む中、児童の読書離れが進み、学校図書以外の本に触れる機会が減少。
③全国学力・学習状況調査から、言語面や表現力に課題が見られた。

3　課題への対応

●既存事業を廃止し、２つの視点（インプット・アウトプット）で新たな事業を実施



《インプット》 図書の読み聞かせ



・区内小学校全学級（R８.5時点162学級）を対象に、地域ボランティアや市立中央図書館と連携し「読み聞かせ」を実施
・読み聞かせに使用した本はそのまま学級に配架

《アウトプット》 ほんのしょうかいバトル

・児童生徒が「おすすめの本」を発表し、児童生徒や審査員の投票で「最も読みたくなった本を決定するコミュニケーション・ゲーム大会の開催
・地域、企業、行政の産官民連携により実施

◆児童の読書意欲等を高めるとともに、子どもたちの“読む・考える・伝える”力を育む
◆本の力で子ども・地域・企業が交流し共感できる場を創出し、一体となって子どもたちを支える環境づくりをめざす

西区中学生の海外派遣事業について

資料　７－２

1　事業目的

西区の将来ビジョンである「誰もが誇りに思える西区」の実現をめざし、子どもの教育を未来への投資と捉え、西区の子どもたちに日本とは異なる文化・社会に触れてもらうことで、グローバルな感覚と柔軟性、自律性、積極性を身につけ、視野を広く持つとともに、世界共通語である英語の能力が高いレベルで身についている人材の育成や、リーダーシップ力の育成を図る。

さらに当該生徒が在校する学校においても報告会などを開催することで、国際理解のある教育を推進するなど、学校及び地域の魅力向上につなげる。

2　事業内容

項　目	内　容
派遣対象	区内の公立中学校に在籍する中学生９名（各中学校３名）
派遣期間	令和８年８月５日～８月９日（４泊５日）
派 遣 先	シンガポール・マレーシア
主な活動内容	・学校交流、家庭訪問（英語コミュニケーション・異文化体験） ・グローバル企業見学 ・異文化エリア散策・SDGs学習など
帰国後の活動	・体験レポート・発表スライドの作成 ・報告会（発表会）の開催等



3　事業の特徴

「成長著しい中学生期にこそ、異なる文化や価値観に触れる体験を」との思いから、地域の企業より寄附をいただき本事業を実施。

“本物の体験”を通じて、子どもたちの可能性を大きく広げる。



西区中学生の海外派遣事業について

資料　7－2

4　事前学習

①日本文化紹介の企画・準備：現地学生へ日本文化や魅力を伝えるため、アイディアを出し合い、相談しながら出し物を決定
②訪問国の歴史・文化等の事前リサーチ：各自で調べた各国の特徴や、法律、文化、宗教など、日本との違いについて発表
③企業訪問にむけたキャリア探求：海外で働くとはどういうことなのか、世界で活躍する企業で働く方へ聞きたいことを生徒間で共有

5　活動報告

①学校交流・家庭訪問

学校訪問では、日本の遊びを通じて英語でのコミュケーションに挑戦。家庭訪問では、民族衣装を着用し、手で食事をとるなど、伝統的な食・生活文化を体験し、異文化への理解を深めた。







②企業見学

海外で働くに至った経緯やその面白さ、日本との違いに関する講話を通じ、グローバルなキャリア形成についての学びを深めた。現地での苦労や業務を円滑に進めるノウハウを教わり、海外で働くことへの具体的なイメージを持つ機会となった。







西区中学生の海外派遣事業について

資料　7－2

5　活動報告

③異文化エリア散策

現地大学生ガイドの案内で、地下鉄・バスを利用し、異文化エリアを散策。多民族国家の多様な文化や宗教が共生する街並みを見学し、昼食時には屋台街で各自で注文・購入を行い、実践的なコミュニケーションを行った。

④SDGs学習

水資源戦略や持続可能な環境整備について、英語での説明を受けながら施設を見学した。未来の自転車専用道路のシミュレーションや高層ビルの緑化の工夫から学びを得て、西区のまちづくりに活かすアイデアについて考えを深めた。









6　事業の成果

アンケートにより、派遣生9名全員が本事業に参加して良かったと回答し、自身の成長や変化を実感していることを確認した。

- **事業KPIの達成（100%）**
  「心や知識の豊かさが増したと回答する派遣生の割合 100%」に対し、全員が深い学びや意識の変化を実感し、目標を達成した。
- **主体性とチャレンジ精神の向上**
  「完璧でなくても伝える」経験から語学への不安を克服し、自ら対話する姿勢が身が身についた。
- **異文化理解とグローバルな視野の拡大**
  現地学生との交流や家庭訪問を通じ、異なる文化や宗教を尊重する姿勢とともに、グローバルな視野を育んだ。
- **キャリア意識の向上と学びの地域還元**
  企業見学を通じてキャリア意識が高まるとともに、学びを西区や学校に還元する意欲が醸成された。

資料　７－２

「つながる・つなぐ」子ども支援事業について

【事業実施のポイント】

①訪問支援（不登校等児童生徒と保護者）
- ●福祉の専門職（支援事業者）による訪問実施
  - ・子ども、保護者に寄り添い信頼関係づくり

適切なアセスメントに基づいて、校内居場所、社会資源につなげる

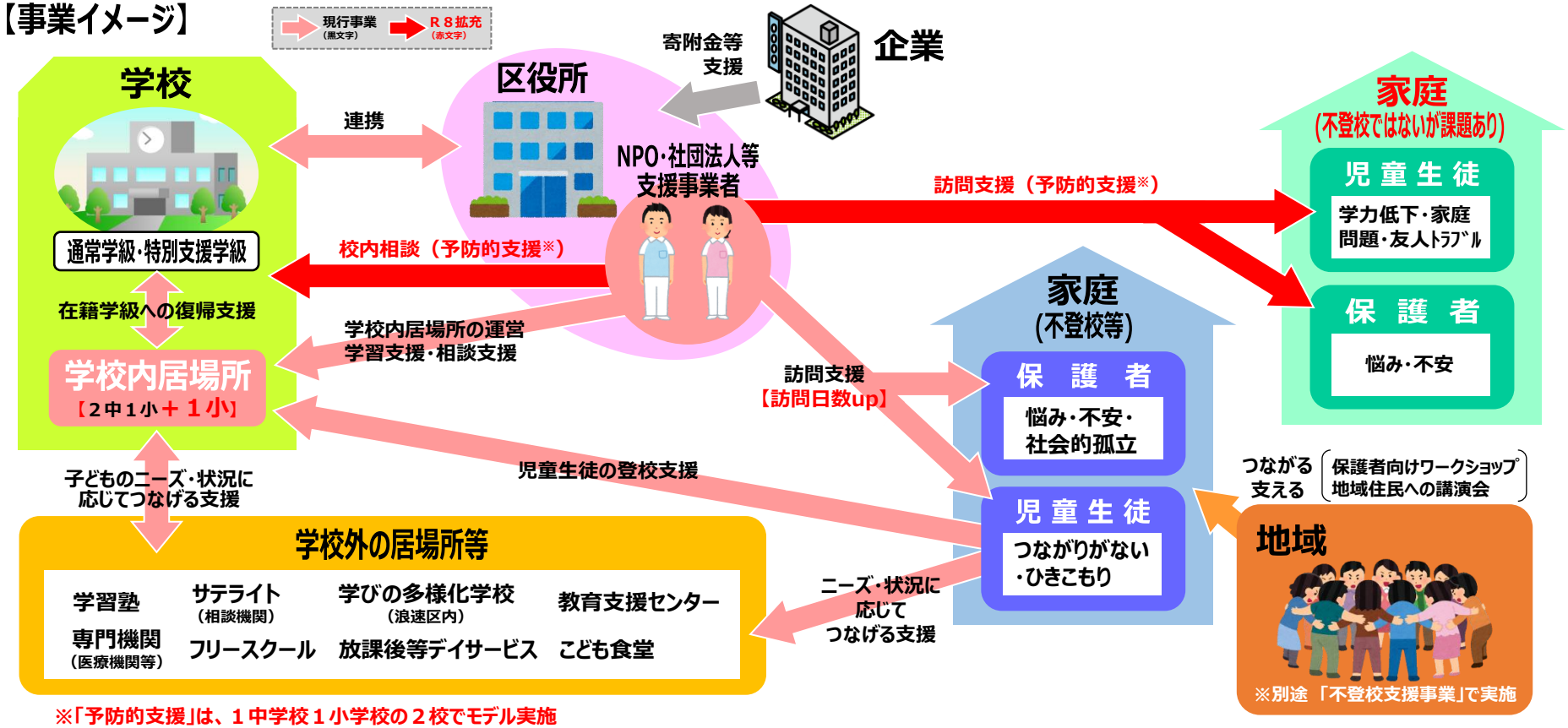
②学校内居場所
- ●福祉的アプローチを取り入れた安心・安全な「居場所」
  - ・「相談支援」を中心に子どもを心理的にサポート

子どもの課題背景を把握し、学校等と連携し、環境調整を行う

③予防的支援（課題のある児童生徒と保護者）
- ●福祉の専門職（支援事業者）による校内相談、訪問実施
  - ・子ども、保護者の小さなサインを早期にキャッチ

タイミングを逃さずに適切な支援を行うことで、課題の深刻化を防ぎ、不登校を未然に防止する

【事業イメージ】



※「予防的支援」は、１中学校１小学校の２校でモデル実施